

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900025		
法人名	社会福祉法人 室根孝養会		
事業所名	孝養ハイツグループホーム		
所在地	〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字向山67-3		
自己評価作成日	令和7年8月5日	評価結果市町村受理日	令和7年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して18年になります。室根山の麓にある特別養護老人ホーム孝養ハイツを母体施設として、総合的・一体的なサービス提供に努めております。グループホームの玄関を出ると左手に室根山が一望でき、手を合わせて拝む方もおります。春にはお花見、6月にはヤマツツジ、秋には紅葉を楽しめる室根山。お花見やツツジ見学、秋には紅葉狩り等の外出や利用者様が希望されたことを叶えられるように努めております。施設内では、利用者様と一緒に食事の準備や洗濯物たたみ、掃除等できることを継続して行えるように支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR矢越駅に近い地域の中心部に位置し、周辺には市の支所、社会福祉協議会、図書館、子ども園、診療所があり、敷地内には、特養、デイサービス、居宅支援事業所が併設されている。法人理念「利用者の笑顔と満足を求めて」を受け、事業の理念を「利用者の生活スタイルに合わせたチームケア」とし、職員は利用者に日々寄り添い触れ合いを通して笑顔を引き出し、楽しく生活するケアに努めている。運営推進会議の委員に、民生委員、警察署員、消防署員を委嘱し、地域の情報や関連対策の助言や提言を得て運営に活かしている。さらに、コロナ禍以降、地域との交流が縮小されてきたが、徐々に再開し地域の太鼓や馬コが来所し、地域の方からは野菜の差し入れやボランティアで除草もしていただいている。食事は利用者の希望を取り入れて職員が手作りし、職員も同席し同じ物を摂りながら歓談している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に掲示しそれぞれの職員が認識し心掛けているが、実践できているかの確認や振り返る機会を設けていない。	法人の理念や基本方針の下で、グループホームの理念を定め、利用者に寄り添い、意向を聴き取り、一人ひとりの生活様式に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	おたより、広報誌を通して施設全体の日常生活状況をお知らせしている。日常的な交流できていない。	年2回発行の法人機関紙「おたより孝養ハイツ」を地域の全戸に配布し、事業内容をお知らせしている。地域のお祭り等を見学に出かけ、生命保険会社主催の展示会に利用者の塗り絵を出品したほか、地域の文化祭に作品を展示するなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホームとしては特に何もしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通して委員の方から意見等をいただき参考にしている。	委員は、利用者と家族の代表、自治会長、民生委員、行政、警察、消防など広範でバランスよく構成されている。利用者の生活状況や事故、ヒヤリハットの報告を行い事業所運営の理解に努めている。委員から「避難訓練は夜間も」の声を受け、夜間想定の実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にて委員の方へ現状を報告し助言等をいただき実践している。	運営推進会議の委員として、行政情報の提供のほか、感染症対策などの助言や指導を得ている。行政通知文書や広報は、本部を通じて入手している。災害情報は防災端末を通じて通報がある。介護認定の申請などは、支所に出向き対処している。苦情や感染症対策の会議等に職員を出席させている。	

令和 7 年度

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていないが、防犯の面から夜間帯施錠している。	本部開催の身体拘束の委員会にケアマネジャーが出席し、会議内容を職員に周知している。身体拘束のチェックシートを活用し、職員アンケートを実施し、日頃の対応の振り返りを行い適正な対応に活かしている。スピーチロックは事例とし取り上げ、話し合いで深め留意している。転倒予防のため、食堂やフロアーに見守りカメラや居室に赤外線センサーを一部活用している。身体拘束の事例はなく、玄関の施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束ゼロ検討委員会からの資料等で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明ができているか不安です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんからは常に意見や要望を聞いているが、外部者へ表せる機会は設けていない。運営に反映させているか判断できない。	面接等の機会を通じて家族の要望や意見を聴き取り、日々の業務に活かしている。オンライン面会の希望や、生活用品の問い合わせがある。「本人がやりたい事をやらせて欲しい」との要望があり、陶芸やぬり絵などの趣味活動に取り組んでいる。	家族が利用者の事業所での様子を知った上で意見や要望が出せるよう、利用料金請求の際に、居室担当者が生活状況が分かる写真や簡単なメモを添付してお知らせするなど、今後工夫を加えていくことを期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長との面談で意見等を聞いていただき反映させていただいていると思う。管理者は、日々職員の意見や提案を聞いている。可能なところは対応している。	本部で職員への個人面談を実施している。管理者は、随時職員の要望等を聴き取り、ドライブの方法、夏祭りの出し物(ゲーム、スイカ割り、バイクなど)のほか、シャワー用の入浴椅子、加温式の便器の導入など、業務の改善、設備の充実を図っている。休暇の取得や勤務体制の変更なども、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給料表に基づく定期昇給、勤務実態に応じ一定水準の賞与も支給。年間休日数で確保すると共に希望休や有給休暇の取得ができるよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得を目指す職員には受講料の補助など職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域密着型サービス協会や施設内の委員会等に参加し情報共有している。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初めはグループホームに慣れていただくことに重点を置き、他の利用者さんとの関係作りにも配慮している。		
----	--	---	---	--	--

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族様の話を傾聴し、何でも話しをしていただけるような関係作りに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	居宅ケアマネジャー中心に行っている。他のサービス利用も含めた対応。グループホームでは対応していない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何でも話ししていただけるような環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や通院対応時電話連絡の際には近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染が流行してから、関係性が途絶えている。	入居時に利用者の馴染みの人や場所を家族から伺っている。コロナ禍で関係継続が難しくなったが、ドライブに出かけた際には、自宅の近くも巡っている。家族や親族が面会に来所したり、通院同行後に馴染みの店で外食される方、家族と馴染みの美容院に行く方もいる。訪問来所する美容師とは、新たな馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	様々な活動の中で(ゲームや歌、脳トレ、塗り絵、調理の準備や洗濯たたみ等)一緒に楽しめる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養で見かけた時には声をかけている。ご家族様ともお会いする機会があった時には声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の言葉や行動等から意向の把握に努めている。又、ご家族様にも確認しながらすすめている。	殆どの利用者は言葉でのコミュニケーションが可能で、趣味の陶芸や編み物など、希望に沿った活動に取り組んでいる。また、プランターの水遣り、清掃、新聞紙畳みなどを行い、看護師だった方には体温測定をお願いしている。「ビールが飲みたい」との希望があり提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやご家族様からの情報は職員全員で共有しサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	担当介護士中心に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーと担当介護士とモニタリングを行っている。利用者に変化があるとき等、その都度話し合いプランに活かしている。	ケアマネジャーが記入し管理している。介護支援経過も参考にして、モニタリングを居室担当とケアマネジャーが行っている。グループホーム会議でカンファレンスを行い、6か月毎に検討・見直しを図っている。計画は家族が来所した際に説明して話し合い、遠方の方にはメールでお知らせしたうえで説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に入力し情報を共有している。		

令和 7 年度

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他部署の方にも協力をいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の方々がいらして施設の環境整備を行ってくださっている。地域の方が栽培した野菜等持参され食事提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望で主治医を決めている。家族対応での通院は口頭で、状況により写真やバイタルチェック表等で情報提供している。	入居後に家族等の了承を得て、隣接の協力病院である国保室根診療所をかかりつけ医とし、職員が同行して受診している。皮膚科や泌尿器科などの専門医には家族が同行して通院し、結果報告を頂いている。予防接種(コロナ・インフルエンザ・带状疱疹)は協力病院で行っている。歯科は国保室根歯科に職員同行で通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタル測定は毎日実施している。体調不良や気になる事があれば看護師に相談し助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	暮らしのシート(医療連携シート)で入院時には情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りは行っている。急変時連絡網及び対応方法を提示しており職員が理解している。	重度化した場合や看取りについて入居時に説明し、同意を得ている。医療と看護の体制が整っていないため、事業所での看取り経験はなく、介護度3になると殆どの利用者は隣接する法人の特養に移っている。	

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に行っていないが、対応方法を提示しており職員が理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害に備えてシミュレーションしている。防災自主チェック表で食材の備蓄品の管理を行っている。	年に2回隣接の特養と合同で防火訓練を実施し、うち1回は夜間想定訓練としている。ハザードマップで地域指定はないが、避難場所は確認している。業務継続計画の訓練は、今後予定している。次回の訓練には、地域住民の「あいあい会」の支援を得ることとしている。備蓄食材は3日分で、ガスコンロを整備し、電力は特養から供給を受ける体制となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々に応じた対応や言葉掛けや排泄、プライバシーに考慮した対応を行っている。ゆっくりと聞きやすい言葉掛けをしている。	入浴、排泄介助は、職員全員が女性で、特に問題はない。居室への入室は、ノック、声がけをしている。失禁した場合は、利用者の心情に配慮し、居室等に誘導している。機関紙への写真や氏名の掲載は、家族の了承を得ている。利用者の個人情報、書類に記載し事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の希望(美容室、外出)に沿えるよう出来る限り対応を行っている。自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースで生活していただけるように努めているが、入浴や食事の時間は職員都合で対応しているところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個別の対応で行き付けの美容院へ行かれている方もいる。在宅生活時に使用していたクリーム等使用したり、居室の鏡をみながら整容等行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様と一緒に準備や調理、片付けを行っている。希望食や行事食等利用者様の食べたい物を献立の参考に取り入れ調理している。	メニューは、利用者の好みを聞き、食材を地元の商店に注文し、買出しに出かけている。調理は職員が行い、一緒に食事を摂っている。家族の差し入れや菜園のねぎ、ナス、カボチャ、ジャガイモなども活用している。おやつは既製品のほか手作りのホットケーキを、行事食としては、寿司、栗ごはん、海鮮丼、餅を提供している。利用者は、調理、盛り付け、食器ふきなどに意欲的に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を入力している。利用者様に合わせた食事形態、バランスの良い献立や使用した食材を入力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔体操は毎日行っている。口腔ケアは、声掛けを行っている。その利用者様に応じてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握しその利用者様に応じてケアを行っている。	排泄チェック表からパターンを把握し、仕草や様子をみて、トイレに誘導している。布パンツが2人で他はリハビリパンツにパットを併用している。オムツ利用者はいない。トイレ付きの居室は3部屋あり、夜間に1名が居室でポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事等を工夫し、排泄チェック表を利用し看護師や主治医に相談しながら下剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週2回入浴できるようにケアしている。行事や出勤者数の関係で変更が生じる場合がある。利用者様の希望を聞きながら時間や日程を変更している。	週2回の入浴とし午後1日3名としている。一番湯、長湯、寝る前の入浴などの希望に応じている。好みのシャンプーやボディソープを使用している利用者もいる。季節により菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、職員と会話が弾み、歌を口ずさむ方が多い。入浴を避けたがる場合には、無理強いせず日を変える等の対応をしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の過ごし方を工夫をしている。眠れない方については、話を傾聴したりテレビ鑑賞等していただいたり利用者様が落ち着けるようにその都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の変更時等には体調変化に注意している。おくすり説明書での薬の注意事項等確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の希望に添えるように笑顔が見られるようにケアしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出行事等利用者様の希望に添って出でられるように努めている。ご家族様から希望がある場合は外出できるようにケアしている。	天気の良い日は、デッキでの日光浴のほか茶会も開催している。玄関のプランターへの水遣りや前庭を散歩している利用者もいる。少人数で花見や紅葉狩りに室根山、気仙沼方面にドライブに出かけ、道の駅や自宅周辺も目的地となっている。地域の夏祭りに出かけたり、利用者の展示物を出展している産業文化祭も見学している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を自己管理されている方もいますが、紛失・盗まれた等のトラブル回避のため、事務所の金庫でお預かりしている。日常的にお金を使える場所はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スマホを食事している方は自由に連絡を取り合っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様に合わせて空調の調整、装飾等は利用者さんと一緒に行っている。	南向きの大型の窓から光が入り、明るく、広々としたロビーには、ソファや食事用テーブルが配置され、和室もあり利用者は自由に寛いでいる。壁には、利用者の貼り絵などの作品に加え、季節の飾りも施されている。各種ゲーム器具も整備され、鉢物や季節の花も配置されている。温度は、エアコン、ヒーター、床暖で管理され、夏の扇風機、冬の加湿器で適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者さんの希望に添って対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	コロナ以降はご家族様が居室に入居することがなくなっているが、入居時には、利用者様が在宅で使用されていたもの等持参していただいている。居室内は、利用者様の希望に添った空間を工夫している。	ベッド、クローゼット、洗面台、トイレ(3部屋)が備わっている。持ち込みは、コタツ、椅子、衣装ケース、家族写真、ラジオ、カレンダーなどが持ち込まれ、窓には、障子があり落ち着いた雰囲気となっている。室内の気温はエアコン、床暖で対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室には表札に名前を記入して解るように工夫している。安全に移動できるように対応している。		